

研究の計画

I 研究主題

未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育
 ー生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成ー

II 研究のねらい

- 子ども一人一人が生活の主体者として、家庭生活を大切にする心情を育むとともに、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、活用できるようにする。
- 生活を見つめ、人やもの、こと、環境と豊かに関わりながら課題を解決し、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

III 研究の視点

1 基礎・基本の定着と活用を図る指導計画

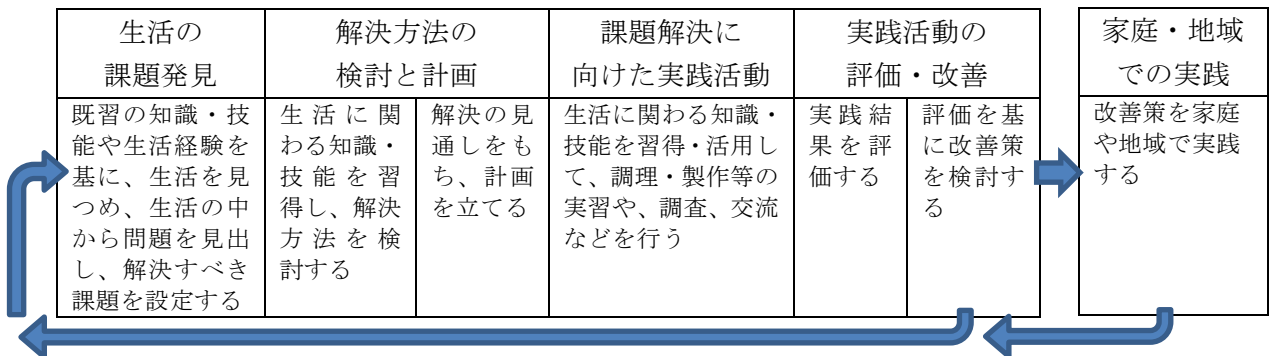
- (1) 指導内容の系統性の明確化
 - 小・中学校5年間の学びの見通しをもち、指導計画を見直す。
 - 指導内容の系統表を活用し、各題材で身に付けさせる力を明確にする。
- (2) 連続性を重視した題材構成や配列の工夫
 - 各題材で重点的に指導する内容と、知識及び技能の定着を図るために繰り返し指導する内容を明確にする。
 - 段階的に繰り返し学びながら基礎的・基本的な知識及び技能の定着が図られるよう題材構成や配列を工夫する。
- (3) 家庭生活を総合的に捉えた題材や教材の開発
 - A「家庭生活と家族」 B「日常の食事と調理の基礎」 C「快適な衣服と住まい」 D「身近な消費生活と環境」の内容を相互に関連させた題材の開発や教材の工夫を行う。
 - Dの内容は、より実践的に学ぶことができるようにA・B・Cの内容と関連を図る。

2 できる・分かる・考える授業づくり

できる・分かる・考える授業とは…

- 課題追究を通して、自分の思いや願いがかなうわくわくする授業
- 生活に必要な力が身に付いたと実感できる授業
- 身に付けた力を基に、生活をよりよくする方法を新たに考え出す授業
- 課題をもち考えたり、考えを出し合ったりしていきいきと解決を目指す授業
- 家庭生活に生かしたいという実践意欲がむくむくと沸き起こる授業

〈学習過程のイメージ〉



- (1) 子どもの気付きを生かし、実生活との関連を図った問題解決的な学習の工夫
 - 子どもの気付きを促す手立てや、実生活とのつながりを重視した学習展開を工夫する。
 - ユニバーサルデザインの視点を大切にし、基礎的・基本的な知識及び技能の定着につながる指導方法を工夫する。
 - 学習のねらいを明確に設定し、子どもが見通しをもって主体的に学習に取り組み、振り返りによって学習内容の定着を図ることができるように学習過程を工夫する。
- (2) 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実
 - 「できる」「分かる」を実感できるよう、五感を生かした直接体験や、実生活につながる模擬体験等を充実させる。
 - 家庭生活と学習の場をつなぐため、アンケートやインタビューの結果を効果的に授業に取り入れる。
- (3) 言語活動の充実
 - 言葉や図表等を用いて「考え」を表現したり、キーワードを用いて「考え」をまとめたりする活動を充実させる。
 - 実践的・体験的な活動の前後の言語活動を充実させる。
 - 課題解決に向けて教え合い、話し合い、考えを深め学び合う活動を工夫する。

3 子どもが伸びる学習評価

- (1) 自己の成長を自覚できる評価の工夫
 - 子どもの思考の流れが分かり、学習の過程を評価できるワークシートや評価カードを工夫する。
 - 2年間の自己の学びや成長を感じることでできるワークシートや記録の仕方を工夫する。
- (2) 子どもの成長や授業の改善に生きる評価の工夫
 - 目標を明確にし、具体的な評価規準を基に適切な方法で評価し、子どもの指導や授業の改善に生かすなど、目標・指導・評価の一体化を図る。
 - 子どもの思考の変容や伸びを見取る多様な評価方法を工夫する。

4 家庭・地域との連携

- (1) 学校と家庭・地域をつなぐ学習展開の工夫
 - 学校と家庭生活の相互のつながりを重視した指導計画を工夫し、保護者や地域人材を積極的に活用する。
 - 子どもの実態に合った教材作りや郷土のよさを生かした題材開発に努める。
- (2) 継続的な実践を促す工夫
 - 各種通信の発行、参観日等を活用したり、長期休業を実践の場として設定したりするなど、継続的な実践を促す。

IV 留意事項

- 消費者として、主体的に考えて生活しようとする実践的な態度を育成する。
- 環境・福祉・健康問題等の身近な課題を解決しようとする実践的な態度を育成する。
- 食育を推進する視点から、栄養教諭等との連携など食に関する指導の充実を図る。
- 小中連携を大切にして情報交換を積極的に行い、自己研修に努める。
- 道徳との関連を図り、家族や家庭生活を大切にしている心情や実践的な態度を養う。
- 家庭科と総合的な学習の時間との違いや関連を明確にし、指導に当たる。
- 施設・設備及びICTを含む学習環境の整備・充実に努め、学習効果を高めるとともに、安全・衛生に関する指導の徹底を図る。